

製品名: カベオリン-2 (リン酸化 Tyr27) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04390**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	CAV2
別名	CAV2; Caveolin-2
遺伝子 ID	858.0
SwissProt ID	P51636
免疫原	抗血清は、ヒトカベオリン 2 の Tyr27 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 12-61

背景

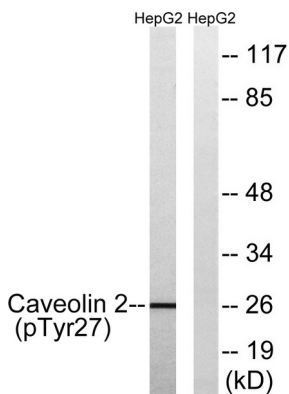
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞膜の小さな陥入部であるカベオラの内面の主要成分であり、シグナル伝達、脂

質代謝、細胞増殖制御、アポトーシスなどの重要な細胞機能に関与している。このタンパク質は腫瘍抑制因子として機能する可能性がある。この遺伝子と関連ファミリーメンバー (CAV1) は7番染色体上に隣接して位置し、共局在するタンパク質を発現して安定したヘテロオリゴマー複合体を形成する。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されている。代替のインフレーム翻訳開始コドンの使用によって生じる追加のアイソフォームも記載されており、細胞内で優先的に局在することが示されている (PMID: 11238462)。[RefSeq 提供、2011年5月]、機能: カベオラ膜内で足場タンパク質として機能する可能性がある。Gタンパク質αサブユニットと直接相互作用し、その活性を機能的に制御することができる。機能: カベオラ膜内で足場タンパク質として機能する可能性がある。Gタンパク質αサブユニットと直接相互作用し、その活性を機能的に制御することができる。カベオリン-2は、カベオリン-1と連携して補助タンパク質として機能する可能性がある。オンライン情報: カベオリンエントリ、類似性: カベオリンファミリーに属する。細胞内局在: 膜内でヘアピン様構造を形成する可能性がある。カベオラの膜タンパク質。サブユニット: ホモ二量体。カベオリン-1と-2は共局在し、安定なヘテロオリゴマー複合体を形成する。組織特異性: 内皮細胞、平滑筋細胞、骨格筋芽細胞、線維芽細胞で発現する。

研究分野

焦点接着;

画像データ



EGF 200 ng/ml 5'で処理した HepG2 細胞ライセートのカベオリン 2 (リン酸化 Tyr27) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。